

都市再生整備計画 事後評価シート
行田市文化ゾーン地区

平成24年3月

埼玉県行田市

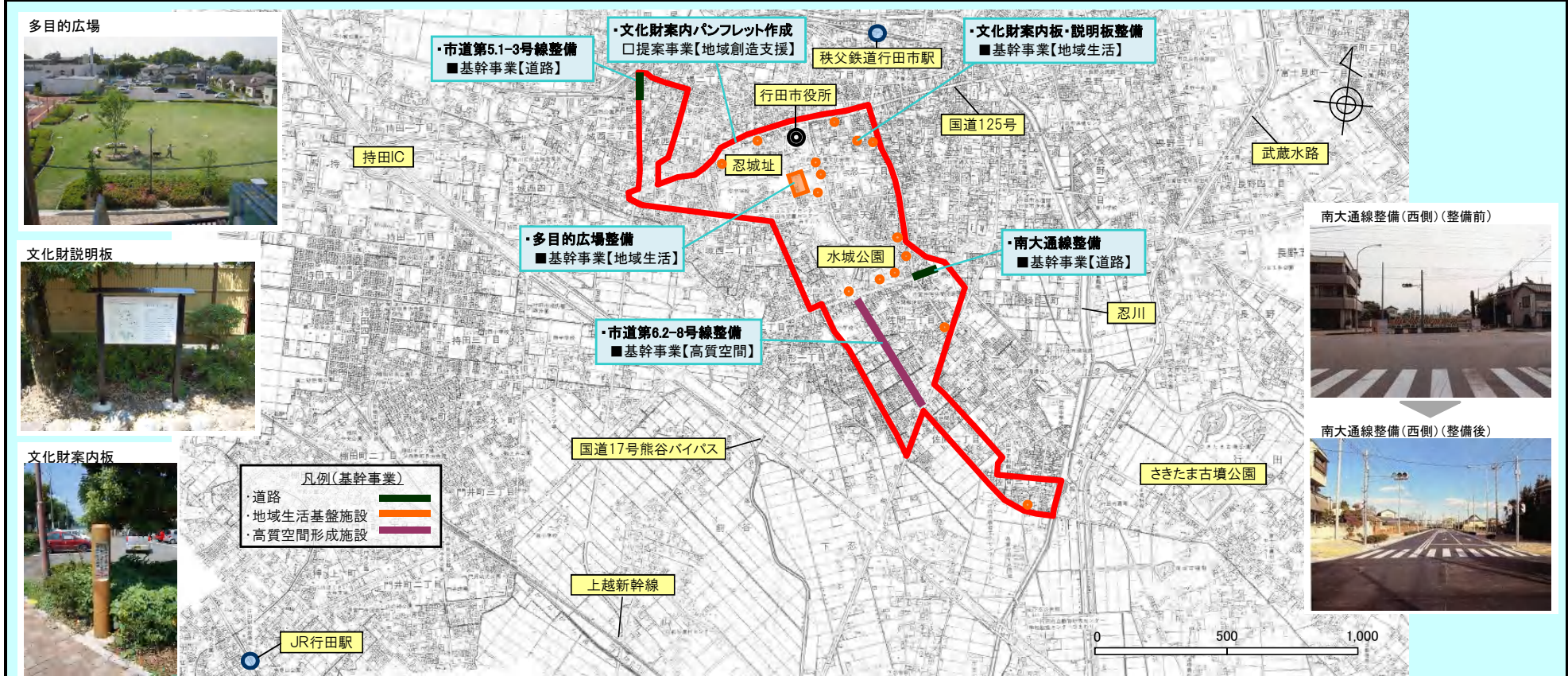
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	埼玉県	市町村名	行田市	地区名	行田市文化ゾーン地区	面積	110ha						
交付期間	平成19年度～平成23年度	事後評価実施時期	平成23年度	交付対象事業費	1,167.2 国費率 0.401								
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
	基幹事業		【道路】市道第5.1-3号線、南大通線【地域生活基盤施設】多目的広場【高質空間形成施設】市道第6.2-8号線										
	提案事業		【地域創造支援事業】文化財案内パンフレット作成										
	当初計画から削除した事業		事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
	新たに追加した事業		事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
当初計画から削除した事業		基幹事業		【地域生活基盤施設】ポケットパーク 【高質空間形成施設】市役所通り、水城公園通り、市道第9.2-1号線		【地域生活基盤施設】ポケットパーク【高質空間形成施設】市道第9.2-1号線:合意形成が長期化し、計画期間での事業完了が困難であったため、本計画から削除した。 【高質空間形成施設】市役所通り、水城公園通り:歩道面の復旧が緊急に必要となったため、整備に時間を要する本事業は延期とし、暫定的な歩道整備を行った。		地区内の歩行者ネットワークの空間形成の向上に関係するが、目標や数値指標への影響は最小限であるため、指標及び数値目標は据え置く。					
提案事業		—		—		—		—					
新たに追加した事業		基幹事業		【地域生活基盤施設】文化財案内板、説明板		登録有形文化財などを巡るための案内板や説明板の設置を追加した。		地区内の歩行者ネットワークの形成に関係するが、指標及び数値目標は据え置く。					
提案事業		—		—		—		—					
交付期間の変更		当初	平成19年度～平成23年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		—		—					
変更		—		—		—		—					
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度		モニタリング	評価値					
	指標1	バス利用客数	人/年	66,703	H17	70,000	H23	81,050 (H21)	160,616	○	あり なし	整備対象路線である南大通線が平成23年1月に開通し、市内循環バス路線が新設されたことにより、地域住民の通勤・通学にも活用され、利用客が増加している。	平成24年4月
	指標2	観光入込客数	人	25,000	H17	30,000	H23	29,000 (H21)	32,000	○	あり なし	「忍城時代祭り」の観光客数は増減を繰り返しているが、全体的に増加傾向である。整備対象事業である多目的広場は、「忍城時代祭り」の物産バザール等の会場として使用されている。	平成24年4月
指標3	アンケートにおける満足度	%	39.0	H14	45.0	H22		71.5	○	あり なし	道路開設によるバス路線の増加や安全で快適な歩道空間の整備、歴史的・文化的資源やイベントによる来訪者の増加など、各事業が多方面で効果をもたらし、総合的に「まちの住みごちの向上」として効果が得られた。	—	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度		モニタリング	評価値					
	その他の数値指標1	「魅力あるまちづくり」に対する地域住民の満足度	%	—	—				60.2			対象事業が、「市中心部の魅力あるまちづくり」として地域住民に実感して頂けた。	—
その他の数値指標2	「歴史的・文化的資源を活用した回遊性の向上」に対する地域住民の満足度	%	—	—				69.0			対象事業が、「歴史的・文化的資源を結びつけ回遊性の向上を目指した整備」として地域住民に実感して頂けた。	—	
4)定性的な効果発現状況	道路整備により、車両の利便性と歩行者の安全性が向上し、市中心部へのアクセスが容易となった。また、多目的広場は、イベントの開催だけでなく、日常の散策などの地域住民の憩いの場としても多く利用されている。案内板や説明板の設置や歩道の景観整備、文化財パンフレットによる情報発信などにより、既存の歴史的・文化的資源を結びつけた個性あるまちづくりが展開されている。道路整備による安全性の向上、及び公園や多目的広場の使いやすさについて、肯定的な意見が多く見られた。												
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	・バス利用者数 ・忍城時代祭り等の観光客数		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 引き続き、データ収集を実施し、まちの活性化の進捗を確認する。					
	住民参加プロセス	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	持続的なまちづくり体制の構築	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									

様式2-2 地区の概要

行田市文化ゾーン地区(埼玉県行田市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標：水・緑・文化・歴史空間の有機的ネットワークを形成することにより、交流拠点の整備や市民生活の質の向上を図り、行田市全体の活性化を目指す。 目標1：忍城址やさきたま古墳公園などの歴史的資源が持つ魅力を活かした、個性あるまちづくりを進める。 目標2：まちなかの活性化を促進するため、人々を市街地へ誘導し、回遊させる仕組みづくりを進める。 目標3：都市機能の充実を図り、市民が心豊かで快適に暮らせるまちづくりを進める。	バス利用客数	単位：人／年	66,703 H17	70,000 H23	160,616 H23
	観光入込客数	単位：人	25,000 H17	30,000 H23	32,000 H23
	アンケートにおける満足度	単位：%	39.0 H14	45.0 H22	71.5 H23



まちの課題の変化	<p>市中心部に日常生活で人が集まるまちの仕組みづくりが課題であったが、道路整備によるアクセス改善と、公共交通機関である市内循環バス路線の増加により、市中心部に集まりやすくなった。市民が暮らしやすいような都市機能の充実が課題であったが、道路整備とそれに伴う循環バス路線の見直しや広場の整備により、利便性及び安全性の向上が図られ、市民が暮らしやすいまちづくりが進んだ。本市の持つ歴史的・文化的資源を活用した、訪れる人の興味・関心を引く仕掛けづくり、点在する観光スポットを回遊させる仕組みづくりが課題であったが、案内板や説明板の設置や歩行者空間の充実により、歴史的・文化的資源を結びつけ、市民や来訪者がまちなかを歩きやすくなった。</p>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<p>市民が暮らしやすい道路や公園の維持管理のため、市民と行政との協働によるまちなみの維持・管理を行う。来訪者にやさしいまちづくりを継続的に進めるために、更なる情報発信・情報の更新による情報提供の拡充や、市民と行政との協働によるおもてなし体制の強化に努める。利便性及び安全性の一層の向上と、コミュニティ空間の創出のために、引き続き歩行者の視点に立った道路整備を進める。また、市中心部の未利用地、空き店舗等の活用を促進する。まちなかの回遊性向上のために、交通環境等(アクセスおよび回遊環境)の整備を進める。</p>